

仁・義・礼・智・忠・信
・孝・悌



KEY
PERSON

「患者様のことを見た第一に考え そのため全力を尽くす」

将来の展望を持てずにいた学生時代に、バックパッカーとして世界各地を旅して回った布施理事長。見聞を広め、自身を見つめ直し、将来を改めて考えた時に歯科医という道を見つけた。そんな異色の歩みだけに、医院づくりにも治療方針にも独自のセンスが光る。だがその一方で、同業者の目には風変わりに映ることもあるという。そのため開業してしばらくは自身の目指すものに迷いもあったが、そのうちに「悩んでいても仕方ない。患者様のためになることだけを考えていれば良い」と吹っ切れた。歯科医院に対する既成概念を打破すべく、新たな試みを続ける理事長の根底には、その信念が揺るぎなくある。

(対談記事は78~79頁に掲載)

日々の食事と笑顔を支えるため 患者一人ひとりに合わせた幅広い治療に対応



ダンカン（タレント）

布施理事長をサポートしているスタッフの方は、長くお勤めされている人がほとんどだとか。皆さんとても明るく、仲が良いことが伝わってきましたね。これからも心をひとつにして頑張って下さい！

医療法人 志友会／中央歯科

群馬県藤岡市下栗須347-1

TEL 0274-24-4180 FAX 0274-25-8101

URL : <http://www.chuoh-shika.com>

中央歯科
CHUOH DENTAL OFFICE

NO SMILE
NO LIFE

「笑顔」と「食事」の大切さを実感し それらを支える歯科医を目指す

ダンカン 布施理事長は、以前から歯科医を目指されていたのですか。

布施 いいえ、周囲には歯科医療に携わる人間はいませんでしたし、以前は全く別の職業に憧れていたんです。けれども残念ながらその夢は叶わず、さりとて大学に進学したものの他に強い関心を持てるものもなくて。そこでまずは見聞を広めようと、世界中のあちこちを旅して回ったんです。その中で次第に自分の将来を考えるようになり、22歳の時に歯科医になろうと決めました。

ダンカン そう思われたきっかけは？

布施 旅に出る前の私は、自分を過大評価していました。根拠もなく、何でもできると思い込んでいたんですね。けれども様々な国と人の出会いを重ね、その優しさに触れるうちに自分自身を見つめ直し、謙虚な気持ちを持って人に優しくできるようになりました。そうした心境の変化もあり、人の笑顔の素晴らしさに気付いたのです。また、旅する中ではたくさんの美味しいものにも出会いました。美味しいものを食べると、人は自然と笑顔になりますよね。そこから「笑顔」と「食事」にかかる何かができないかと考えるようになりました。歯科医を目指すようになったんです。

ダンカン なるほど。では帰国された後に、一から勉強されたのですか。

布施 ええ。猛勉強して歯科大学に入学し、卒業後は勤務医として経験を積みました。3つの歯科医院で院長を務めた経験を活かして、この「中央歯科」を立ち上げたんです。2013年の2月で、開業から丸7年を数えます。

内装・雰囲気・服装—— 様々な部分に工夫を凝らして

ダンカン 歯科医を目指された時から、独立はお考えだったのですか。

布施 ええ、いざれ自分の医院を持つことを目標として、研鑽を重ねてきました。開業医は一般歯科だけでなく、審美歯科やインプラント、矯正などの専門分野を掲げている医院も多いでしょう。私も専門は何かとよく聞かれるのですが、そんな時は「臨床」だと答えています。患者様一人ひとりの話をしっかりと聞いて、その人に合った治療を提供することを第一としているんです。ですから希望があれば審美・インプラント・矯正にスポーツ歯科など、幅広い治療を行うことができます。

ダンカン それは患者さんにとって、実にありがたいですね。

布施 最近では歯科医も増えてきて、この地域も歯科医院が多いですが、ありがたいことに多くの患者様が当院に来て下さっています。

ダンカン その人気の要因はどこにあると、理事長ご自身はお考えですか。



「歯科医院のイメージを刷新し リラックスして受診できる 医院づくりを目指しました」

布施 患者様の話にしっかりと耳を傾けるよう、心がけているからではないでしょうか。加えて当院はよく「歯医者らしくない」と言われる所以、その辺りも好まれる理由なのかも知れません。

ダンカン 確かに歯医者らしくない雰囲気ですね。どうしても痛い・怖いというイメージが歯医者にはあります。こちらの院内はリラックスできる空間になっています。

布施 まさにその痛い・怖いというイメージを変えたかったんです。そこで診察室でも中庭が見えるガラス張りの設計にし、診察台は座り心地のいいものを使ぶなど、緊張がほぐれる空間づくりをしています。歯科医院独特のにおいがしないようにも気を配っています。白衣も様々な色のものを着て、患者様の苦手意識を和らげるよう努めています。

ダンカン 患者さんはやはり地元の方が多いのでしょうか。

布施 もちろんそうですが、紹介を受けて遠方から足を運んで下さる方もいらっしゃいます。歯科治療はしばらく通院が必要ですが、当院では遠方から来られる患者様のことも考慮して、できるだけ少ない回数で治療を終えられるようにしているんです。

ダンカン そういったところも、患者さんに支持される理由なのでしょうね。今後の展望として、医院の拡充などもお考えですか。

布施 拡充は今のところ考えていません。というのも医師は私一人ですから、どうしても診られる人数に限界があるんですね。かと言って代診や分院をしたら、チェーン店のようになってしまします。そうではなく、私自身の責任でもって自ら診



理事長／院長 布施 英明

療にあたりたいと思うんです。初心を忘ることなく、一人ひとりの患者様を大切にした診療を続けていきたいと思っています。

ダンカン 歯科医療に懸ける思いの強さが窺えます。その思いを貫いて、これからも頑張って下さい！

(2012年12月取材)

COLUMN

旅の経験を医院づくりに活かして



▼『中央歯科』のロゴである、3つ連なるブルーのマーク。これは食べ物に付いた歯型をモチーフにしたものだ。布施理事長が趣味のサーフィンを楽しんだ後、仲間とバーベキューをしていた時に思いついたのだという。かつて世界各国を旅した中で「笑顔」と「食事」の大切さを感じ、「笑顔で食事を楽しめる生活を支えたい」と歯科医を志した理事長の思いが込められたマークだ。「笑顔と食事は、私が歯科医療に携わるようになった原点。その象徴であるこのロゴマークを掲げている限り、思いがブレることはない」という。

▼医院づくりにおいても、諸国を旅した経験が活きている。たとえば、歯科大学在学中にスリランカへ行った時のこと。



出会ったイギリス人に、歯科医を目指しているという話をしたそうだ。「すると彼は、歯医者の椅子は地球上で2番目に座りたくない椅子だと言うんです。1番目は処刑台の椅子だと。それだけ怖いイメージがあるのだと驚きましたね」と理事長。そこで独立の際には、座り心地の良い診察台を導入した。さらにモスクワで出会った僧侶から、ヨーロッパで日本の禅がブームだと聞いたことをヒントに、和風のテイストを取り入れて心を落ち着けてもらおうと考えた。院内には日本庭園の中庭が設けられており、診察台から眺められるようになっている。今までの経験を余すことなく糧としてつくり上げた医院は、「歯医者らしくない」として多くの患者の支持を得ている。